

スコットランド訪問所感

長崎市議会議員

吉原 孝

アバディーン市

トーマス・グラバーが住んでいた街。

我が国の近代化に大きな役割を果たしたその一部を実感した。

海洋博物館では、幕末に長州藩の軍艦・長翔丸をこの地で建造した。その設計図及び模型が展示されていた。グラバーが 1800 年代後半の産業国家としての日本の発展に尽力した一端を見た思いがした。

次に、グラバー邸を見学したが、残念ながら閉鎖されていた。庭園と外観を拝見したが、幕末時、長州藩士がこの邸にホームステイしていたと伺い感慨深い思いがした。

見学者が少なく運営財団の経営が厳しいとのことだった。財団の再興を期待したい。

アバディーン市は北海油田の基地としても栄えている。しかし、化石燃料に頼ることなく、クリーン再生エネルギー産業に産学一体となって、力を入れている事を学んだ。洋上風力発電、水素ガス自動車の稼働などなど。

特に水素ガス自動車に関しては、既に市内で 10 台が実働し、公共交通として利用されていると伺った。私共も水素ガスバスに乗車して市内各地を稼働したが音無しの構えで走行し快適であった。水素ガス製造施設を視察した。コンパクト化した技術力を評価したい。

スコッチウイスキーの醸造元、グレンギリ蒸留所を視察した。サントリーホールディングスの傘下にあると云われたが、伝統を守り大麦を厳選し、純粋のモルトウイスキーを作っている姿に感動した。

市長議会一体となったアバディーン市の接待は素晴らしかった。市庁舎は重厚で内装は 19 世紀以来の装飾を施した立派なホールを有し、その会場でレセプション招待を受けた夕食会では、同席したグラバー財団のイアン・ワトソン氏、トヨタの水素ガス自動車担当のクリス・オキーフ氏、富士通のデイブ・マッキャン氏等とグラバーハウスの件、再生エネルギーの件について歓談でき有益だった。

今後、本市とアバディーン市の友好促進を図り、エネルギー関連の連携強化の必要性と、長崎大とアバディーン市の連携、情報交換の必要性を痛感した。

エジンバラ市

SRU(スコティッシュ・ラグビー・ユニオン)の接待は素晴らしかった。到着すると直ちにスタッフが歓迎レセプション(昼食)。移動して、長崎市中学生ラグビー選抜チームと、SRU ジュニア 15~16 オチームとの交流試合観戦。

長崎チームは体力差を物ともせず善戦し惜敗。長崎チームはスコットランドに対して国を背負っての戦意を感じ、その闘志に感動した。その後、日本の総領事館に招待を受けた。

総領事主催のレセプション会場は領事館であった。広い敷地に素晴らしい石造りの英国風建物で風格があった。建物の玄関に大きな菊のご紋章を拝具したのは印象に残った。

松永大介総領事ご夫妻の温かいおもてなしと寿司など和食になつかしさを感じ美味しくいただいた。

この時期はフェスティバルエジンバラの期間中だった。3週間に 400 万人の観光客が訪れるとのことだった。無名の芸人の発表の場を期間中 290 ヶ所で提供し、賑わいを創出する催事とのことであった。

エジンバラ城を中心に城下はすごい賑わいだった。各所に大道芸人たちがパフォーマンスをしている姿が印象的だった。

イベントの目玉となっている「エジンバラ・ミリタリー・タウ」を視察した。城内に 8000 人収容の観客席。数か国の軍楽隊が演奏と行進を行うイベントだが、毎晩フェスティバルの期間中実演されているようで、隊列編成行進の素晴らしさ、音楽の勇壮さに感激。

SRU と本市の調印式

2019 年ワールドカップラグビー東京大会のキャンプ地を、正式に決定する調印式が、SRU の本拠地マレーフィールドの芝の上で行われた。本市は万全の準備で受入体制を整え、選手役員が時差の影響なく調整ができる環境整備を図らねばならないと思った。

式後マレーフィールドでチームのトレーニングを見学。すごい体格の選手たちに驚く。怪我が多いスポーツなので、治療・リハビリ施設の充実が必要だが、すべてパーフェクトに完備されていた。

滞在最終日は終日歓迎を受け、深夜まで SRU 主催レセプションが催され、最終はスコットランド民謡、日本名「蛍の光」の合唱で友情の絆を深めた。

SRU マーク・ドットソン会長の熱意と厚意に心から感謝したいと思う。

これから、スコットランドと長崎はアバディーンも含め、人的スポーツ交流に止まらず、経済、文化交流を深化させ相互の発展に寄与できる関係構築が出来るよう努力する決意を新たにした。